

島根県西部で初記録となるワスレナグモ（クモ目：ジグモ科）について

皆木 宏明*・景山 純孝**

The First Record of *Calommata signata* Karsch (Araneae : Atypidae) from Western Shimane Prefecture

Kohmei Minagi and Atsunori Kageyama

はじめに

ワスレナグモ *Calommata signata* (クモ目ジグモ科) は、国内では本州から四国、九州に分布し地面に縦穴を掘り地中に営巣するクモである(新海ら, 2006)。畑や草地、芝生や庭園の植え込みの縁などの地面に10~30 cmの深い縦穴を掘り、夜間に巣の入り口付近で待ち構え、通りかかる昆虫や小動物を捕える(新海栄一, 2006)。かつては東京都内でも畑地や草地で普通に見られたが(新海, 2006a)、本種は生息域が人間の生活域と重複することから生息地の改変等により減少し、全国的に絶滅が危惧されており、環境省レッドデータ及び島根県レッドデータでいずれも準絶滅危惧種に指定されている(環境省, 2006; 島根県, 2004)。島根県内での本種の記録は、過去には隠岐の島町の国分寺(景山, 1968)、近年になって出雲市大社町の出雲大社と隣接する神光寺(新海・谷川, 2006)の計2地点3か所で記録があるのみで、隠岐と島根県東部(出雲部)で記録があったが県西部(石見部)ではこれまで確認されていない(図1)。

筆者らは今回、2013年発行予定の島根県レッドデータブック(動物編)改訂作業の一環で、平成24年度島根県受託事業「しまねレッドデータブック改訂現地調査等業務(維管束植物等)」により本種の生息調査を実施する機会があり、これまで記録のない島根県西部において本種の生息を確認したので報告する。

調査方法

2012年9月30日-10月1日に島根県津和野町において、

目視でワスレナグモの巣穴の有無を確認する生息調査を実施した。調査者は景山・皆木の2名で、調査にあたっては、筆者の1人皆木が以前に本種と思われる巣を確認している津和野町青原にある青原八幡宮の境内でまず巣を探索し、その後、津和野町内の他の神社で調査した。生息の確認された場所では営巣数を記録し、種の確認のため、一部は巣の確認後に生体を掘り出した。

結果及び考察

調査の結果、青原八幡宮1ヶ所でのみワスレナグモの生息を確認した(写真1・2)。同所的にジグモ *Atypus karschi* (クモ目ジグモ科)の巣も複数見られたが、巣の形状から区別は容易であった。確認したワスレナグモの巣の数は合計7個だった。巣口のサイズからいずれも幼体と判断され、最も大きなものでも内径8 mm未満、ほとんどが数 mmサイズの巣であった。

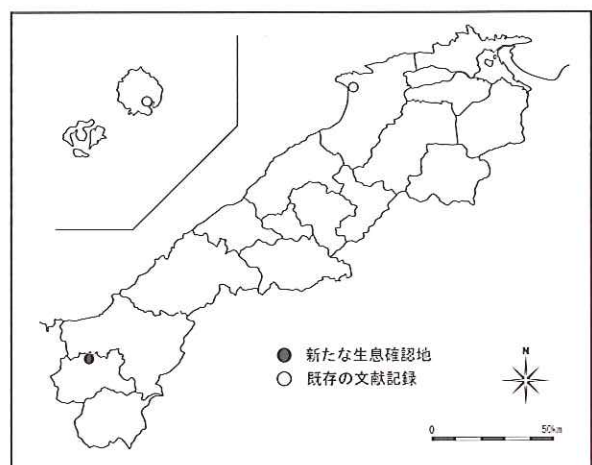


図1 島根県におけるワスレナグモの産地

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

** 日本蜘蛛学会会員, 島根県雲南市大東町

The member of Arachnological Society of Japan, Daito-cho, Unnan, Shimane

境内は小規模ながらも周囲を社寺林に囲まれたやや薄暗く湿った環境であった。巣のあった場所は1 m²ほどのごく限られた範囲に集中して見つかリ、建物の軒下で周囲がコケに覆われた裸地だった。境内にはほぼ踏み固められた地面だが、巣の確認された場所は人の入らない場所で、相対的にやや柔らかい地面だった。境内をくまなく調査したが、他には巣を確認することはできなかった。その後、近隣の神社である三渡八幡宮(津和野町三渡)や太鼓谷稲荷神社(津和野町津和野)でも調査を行ったが、本種は確認できなかった。

ワスレナグモの生息環境については、畑や草地、芝生や生垣の植え込みの根元など、比較的乾燥した明るい環境が報告されていることが多い(八木沼, 1986; 新海, 2006b; 西川, 2006)。今回確認した場所は周囲を樹木に囲まれ、日当たりは悪く、上記の環境に合致しない。しかし湿地や森林内で本種が見つかった記録もあり(加村, 1991; 新海, 2006)、本種の生息環境はかなり広範囲にわたっている可能性も指摘されている(新海, 2006b; 佐藤ら, 2007)。今回の調査結果は後者の可能性を示唆する結果となった。

また本種の巣は、1~数個体ずつ点在する傾向があ

ると言われているが(新海, 2007b; 笹岡, 2005)、一方で100 巣以上多産する生息地も報告されており、それらはいずれも芝地や植え込みなど比較的明るい環境である(笹岡, 2005; 新海, 2006b; 佐藤ら, 2007)。隣県の鳥取県でも1地点で200 個以上の巣の確認例があるが、確認された生息環境は海岸線に近い日当たりのよい芝地であり、また同様の環境で本種の巣の発見率が高かったことから、芝地が本種の生息適地であると述べている(佐藤ら, 2007)。

島根県内では、クモ類の生息調査は非常に乏しくワスレナグモの記録も社寺での2地点とわずかしかない。また本種はその生態から人目につきにくいことから、県内には芝地環境も含めてまだ見つかっていない生息地もあるだろう。今後も生息調査を進め、本種の生息状況の解明と保護のためにも新たな生息地の発見が望まれる。

謝 辞

島根県自然環境課には、本調査の機会と発表について承諾頂いた。この場を借りて厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 景山純孝 1968. 隠岐島産真正蜘蛛類について(続報). 松江市立教育研究所研究収録, 5: 97-104.
- 加村隆秀 1991. ワスレナグモは湿原にもいる. くものいと, 1729.
- 環境省 2006. 日本レッドデータブック. 環境省自然環境局野生生物課(編)
- 桑田隆生・境 武志 2008. 日本大学理工学部船橋キャンパスおよび周辺地域における準絶滅危惧種ワスレナグモ *Calommata signata* の分布. *Kishidaia*, 93: 13-22.
- 西川喜朗 2006. ワスレナグモ. p.59. In: 環境省自然環境局野生生物課(編)改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物。ーレッドデータブックー. クモ形類・甲殻類等. (財)自然環境研究センター(東京), 86pp.
- 笹岡文雄 2005. 新潟大学構内にワスレナグモが多産. *Kishidaia*, 87: 80-81.
- 島根県 2004. 改訂しまねレッドデータブック〜島根県の絶滅のおそれのある野生動植物.
- 新海 明 2006a. ワスレナグモへの讖悔. *Kishidaia*, 89: 52-56
- 新海 明 2006b. ワスレナグモに関する覚え書き *Kishidaia*, 90: 17-21.
- 新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2010. 県別クモ類分布図ver.2010.著者自刊(CD-ROM)
- 新海 明・谷川明男 2006. 東京蜘蛛談話会2006年度合宿報告島根県大田市温泉津(ゆのつ)温泉周辺のクモ. *Kishidaia*, 90: 52-61.



写真1 ワスレナグモ



写真2 ワスレナグモの巣(矢印2ヶ所)

- 新海栄一 2006. ネイチャーガイド日本のクモ. 文一総合出版.
335pp.
- 佐藤隆士・和田年史・中島ちづる・鶴崎展巨 2007. 新たに確認
された鳥取県東部のワスレナグモの生息地. 山陰自然史研究
第3号 鳥取県生物学会6-10.
- 八木沼健夫 1986. 原色日本クモ類図鑑. 保育社.